

滋賀県における斑点米カメムシ類の  
水田および水田畦畔での発生消長

龍谷大学 農学部 樋口 博也

## はじめに

小島・内田（1974）は、1971～72年に滋賀県湖西地方の早期栽培米の水田で、捕虫網によるすくい取り調査を行い、斑点米被害を引き起こすカメムシ種は、ホソハリカメムシ *Cletus punctiger* (Dallas) とトゲシラホシカメムシ *Eysarcoris aeneus* (Scopoli) であると報告している。長谷川ら（1979 a）は、1974～78年の調査で、ホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシ *Leptocoris chinensis* Dallas が滋賀県で斑点米被害を引き起こす主要種であると考えている。さらに、1989～99年に滋賀県病害虫防除所が行った斑点米カメムシ類の生息密度と発生地点率の調査結果から田中（2000）は、斑点米カメムシ類はホソハリカメムシ、トゲシラホシカメムシ、クモヘリカメムシにアカスジカスミカメ *Stenotus rubrovittatus* (Matsumura)、アカヒゲホソミドリカスミカメ *Trigonotylus caelestialium* (Kirkaldy) を加えた5種に変化していることを指摘している。

このように、斑点米被害を引き起こすカメムシ種は、変遷していると考えられる。そこで、2016年から3年間、滋賀県の湖西地区と湖南地区の水田とその畦畔で、斑点米カメムシの種と発生の推移を調査したのでその結果をここに報告する。

本調査を進めるにあたりご協力をいただいた、滋賀県大津・南部農業農村振興事務所 西田阿斗氏、ユキオズファーム 西村幸雄氏、JA レーク大津 田中章吾氏、水口一平氏、龍谷大学農学部資源生物科学科 磯見祐輔氏、野中大輝氏、山内稜平氏に厚くお礼申し上げます。

## I 水田および畦畔での発生消長

調査は、2016～18年に滋賀県大津市南小松、南比良（湖西地区）、石居（湖南地区）の水田で行った（図-1）。調査場所、調査年、イネ品種、早晚性、栽培面積、移植日、出穂期、収穫日を表-1に示した。水田内の40～50%のイネ株が出穂した日を、その水田の出穂期とした。大津

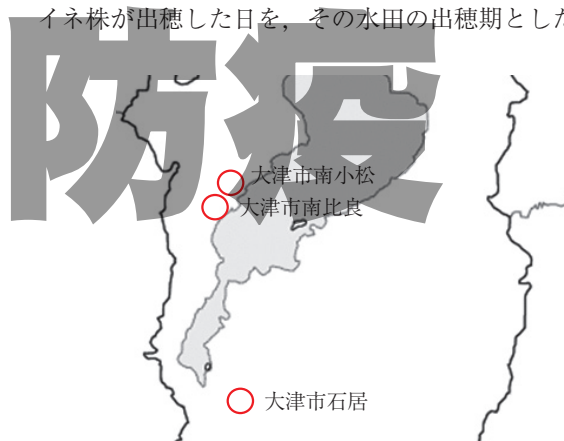


図-1 調査を行った水田の位置

表-1 調査を行った水田の耕種概要

調査場所	調査年	品種	早晚性	栽培面積	移植日	出穂期 <sup>1)</sup>	収穫日
大津市南小松	2016	みずかがみ	早生	30 a	5月6日	7月19日	8月22日
	2017				5月3日	7月16日	8月21日
	2018				4月29日	7月17日	8月21日
大津市南比良	2017	みずかがみ	早生	24 a	5月3日	7月16日	8月21日
大津市石居 <sup>2)</sup>	2017	日本晴	中生	14 a	5月16日	8月9日	9月24日

<sup>1)</sup> 出穂期は、水田内の40～50%のイネ株が出穂した日を、その水田の出穂期とした。

<sup>2)</sup> 大津市石居のみ、8月25日に殺虫剤（クロチアニジン粉剤 DL）を散布した。

Seasonal Prevalence of Occurrence of Rice Bugs Causing Pecky Rice in Paddy Fields and Levees in Shiga Prefecture. By Hiroya HIGUCHI

（キーワード：斑点米，ホソハリカメムシ，クモヘリカメムシ，イネカメムシ，水田，すくい取り，発生消長）